



梓川の  
世帯数・人口

世帯数	4,831戸
人口	12,086人
男	6,013人
女	6,073人

(令和6年9.1現在)



梓川地区×御浜町

ふれあい交流会

8月7日から9日までの3日間、御浜町の児童15人が梓川地区を訪れ、梓川小学校の児童9人と交流を深めました。

平成6年に始まったこの交流会は、小学校5・6年生が毎年交互に地域を訪問しており、新型コロナウイルスの影響で5年ぶりに梓川での開催となりました。

3日間の交流で、児童たちは松本城や上高地、市立博物館などを訪れ、松本市の自然や文化に触れ、互いの地域への理解を深めました。

梓川から参加した児童は、解散式で「御浜町から、どういう児童が来てくれるのだからかと不安な気持ちもありましたが、去年参加してくれた子と会えるのを楽しみにしていました」「これからも御浜町と梓川が仲良く交流していきたいなと思います。来年は今の5年生が参加して、御浜町で楽しい思い出を作ってきてください」とあいさつをして、手紙を書く約束をしていました。



御浜町児童との対面式



国宝 松本城見学



上高地 山の日記念碑前

市立博物館



36分団防火水槽清掃

梓川地区の36分団の活動を紹介します。

消防団は、住民の安全・安心を守るため様々な活動を行っており、36分団では防火水槽の掃除も行っています。

梓川地区では消火栓が多く設置されていますが、以前は防火水槽が火災時の重要な水利として利用されていましたが、今ではあまり見かけなくなりましたが、



◀団員が溜まった泥を掃除

36分団では今でも利用できるような管理を行っています。  
この防火水槽は堰(せき)などから水を入れるため泥やごみなどが入り込んでしまい、定期的に水槽内の清掃を行う必要があります。36分団では年に一度、泥をすくうなどの作業を行っており、今年も7月13日に大久保地区の防火水槽2か所の掃除を行いました。  
暑い中で大変な作業でしたが、団員は「この地域の防火水槽は大切な水利。これからも重要な活動として続けていきたい」と、泥にまみれながら汗を流していました。

### 将来の移動手段を残すためのーと松本

現在、梓川地区ではAⅠを利用したオンデマンドバス「のーと松本」が運行しています。

子どもの学習塾で利用した際は、運転手さんが優しく、時間も正確で安心できました。

しかし、現在の利用者数は目標に達していません。『なぜでしょうか?』利用者からは「平日の日中のみの運行で、夕方や土日に使えない」「新村駅、三郷の商業施設まで運行してほしい」「病院の受付に間に合うよう運行時間を長くしてほしい」などの声が聞かれます。

住民の要望、意見を運行内容に反映し、利用者のターゲット層を広げる必要があるのではないのでしょうか?

梓川では路線バス「ぐるっとまつもと」も運行しています。どちらの運行内容にも、利用に至らない何かがあると思います。将来の移動手段の確保に向けて、行政側には、もつと踏み込んでいただきたいと思えます。そして、梓川地区の皆様、「のーと松本」は心地よく利用できるの、一度利用してみてください。



▲のーと松本運行中

### 焙煎講座

下立田町内公民館では、6月、松本市の中町通りにある「中町・蔵シツク館SABO(サボウ)」の店主、海老原さんを講師にお迎えし、手網によるコーヒー焙煎講座を開催しました。

「手網焙煎」とは、コーヒー豆(生豆)を、銀杏を炒るような道具で焙煎する方法のことです。ガスコンロの直火で左右に手網を揺さぶりながら、生豆を炒ります。

参加者からは、「網の振り方や角度、火からの高さによって豆の色が違ってくるし、炒っている最中の音や香りの微妙な違いに気づかなければならないなど、奥が深い。難しかったけれど、自分で淹れたコーヒーはとってもおいしい、最高!」



◀手網を使った焙煎

人気の講座で計3回開催され、集まった参加者は子どもからシニア世代まで幅広く、町会の仲間たちとともに充実した時間を楽しみました。

### 新任分団長あいさつ



第36分団 工藤雄市分団長

本年度、松本市消防団第36分団の分団長に就任いたしました工藤です。

第36分団は、梓川の中でも山沿いの地域に当たる、大久保、南北条、北々条、小室の4町会を管轄しています。

私も含め、団員は普段は会社員や自営業など別の職業に就いていますが、毎月15日の市民防火の日には担当区域を巡回するほか、火災現場での消火活動のみならず、地震や水害など大規模災害時の救助救出活動、災害防衛活動、行方不明者の捜索など、様々な活動を行っております。今後地域の皆様への安全・安心を守るため、団員一丸となって消防団活動に尽力してまいりますので、引き続き皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

### 雑記帳



私は縁もゆかりもない梓川エリアをはじめて車で通りすぎた時のことをよく覚えていきます。

松本ICから真つ白な乗鞍岳を正面に見ながら国道を走っていました。広々とした大地が徐々に左右の山林が近くなり、水田の幅が狭くなると、山の道へと切りかわる事を教えてくれていたように、山と平野がグラデーシヨンのように変わる梓川の景色がとても気に入りました。移住して8年程になります。

そして、勝手に思っていることがあるのですが、梓川橋あたりから上高地方方面へ向かう道は虹をよく見る事ができます。虹は「晴れ↓雨↓晴れ」と空模様が変わる瞬間に現れますよ。日本有数の高山地形が初夏に雨雲を駆け、松本平では晴れているという日がよくあります。そんな雨と晴れの中間地点となる梓川地区はアーチ状の虹を年に5回ぐらい、イヤもつと見ている方もいらっしゃるかもしれません。そんな梓川は「日本一、虹が見られるラッキーな場所」と勝手に思っており、虹が現れるとなんだか幸せな気持ちになります。